

岩手県職労

月2回刊=1481号
2017年3月30日 発行
発行日 毎月15日30日
発行所
盛岡市内丸九番1号
岩手県庁内
岩手県職員労働組合
印刷所
盛岡市上田二丁目17-4
有限会社 ジロー印刷企画
一部 40円
組合員購読料は組合費に含む

ますます保障充実

入院、通院、手術から診断書料補助までトータルに保障します。

日帰り入院保障
[不慮の事故/病気の場合]

じちろうの団体生命共済

自治労共済本部

●詳しくは所属する組合まで

き事項、同時並行で取り組むべきこと等を整理のうえ対応すべきと指摘し、職員の健康確保の観点からも時間外労働の上限規制をはじめ超過勤務縮減に向けた取り組みを強く要請した。

『共謀罪』創設反対! 緊急署名

政府がテロ対策を口実に「共謀罪」(いわゆるテロ等準備罪)の創設を狙っている。思想や良心の自由等の抑圧につながる重大な問題です。4月上旬から署名の取り組みを行います。

組合員はもとより、多くの職員の皆様のご協力をお願いします。

春闘交渉・具体的方向性示さず

公務員連絡会 3.16春季生活闘争中央行動



▲シュプレヒコールで人事院交渉を支援する中央行動に参加した仲間

次回3・24人事院総裁交渉で前進回答求める

3月16日、公務員連絡会は、人事院職員福祉局長・給与局長交渉を春闘期の交渉ヤマ場と設定し、全国からは「連合の集中回答では、大変厳しいながらも4年連続のベースアップを獲得する結果だが、これからの公正な結果だ。春闘への一層の結束を」と提起し、その後、自治労等から決意表明を受け、人事院前交渉支援行動を背景に交渉を行った。

【給与局長交渉】

賃金改善に関し、局長は「民間春闘における回答・妥結の動向を注視していく」「諸手当は民間の状況、公務の実態等を踏まえ、職員団体の意見も聴きながら総合的に検討する」との回答にとどまり、退職手当に

「脱原発」の運動を全国に広げよう

3.18原発のない福島を！県民大集会

3月18日、福島県郡山市で開催され、全国から労働組合、市民団体を中心に、約5700人が結集した(岩手から34人が参加)。

福島では、今年4月に帰還困難区域を除く避難解除が行われることになっていくところ。見解の表明に向けて職員団体等の意見も伺いながら適切に対処していく」との見解を示すにとどまり、極めて不十分な回答となった。交渉団からは、賃金・諸手当の具体的改善とともに、退職手当見直しについては前広な議論を強く求めた。

【職員福祉局長交渉】

長時間労働の是正に関し、局長は「実効性ある超過勤務の縮減策を検討する」との回答にとどまったことから、交渉団からは、長時間労働の是正など働き方改革は公務が先行して取り組むべく求めた。

【今後の対応】

今回の交渉は、要求に沿った回答とは程遠く、極めて不満が残る結果となった。公務員連絡会は、春闘交渉の最終局面である3月24日に人事院総裁交渉を実施し、要求実現に向けた回答を強く求めていく。

退任役員紹介

組合員の生活と権利向上に向けてご尽力をいただきました6名の役員の方が退任します。4月からは「支部・分会の活動で県職労を支える」と力強い言葉をいただいています。ご苦労様でした。



副中央執行委員長
小田嶋智昭 (花巻支部)



中央執行委員
佐藤 睦子 (二戸支部)



鳥屋部 圭 (胆江支部)



多田 康洋 (胆江支部)



会計監事
永山 光悦 (胆江支部)



宮澤真由美 (花巻支部)



▲安全・安心の回復と福島第二原発の廃炉を訴える3・18福島集会の参加者

るが、依然約8万人もの住民が避難を強いられ、安心して地域で暮らす権利が失われている。その一方で安倍政権はフクシマの犠牲を顧みず、原発再稼働に突き進んでおり、脱原発の闘いの強化が不可欠だ。

開会に当たり、実行委員長の角田政志さん(福島県教職員組合中央執行委員長)は、「福島原発被害は今もなお続き、県民を中心に故郷を追われるばかりか、甲狀腺がんなどの被害も深刻だ。政府は復興を見せかけ、住民の帰還を促しているが、街の再生は事実上困難を極

められている。改めて原発で失った福島の現実に向き合うべきだ。政府は、原発再稼働を進めるばかりか、既に破綻した核燃料サイクルにも固執している。3月17日、前橋地裁は、原発事故は予見でき、国と東電の責任を厳しく指摘した判決を下した。これが本来の姿であり、私たちの悲願の判決だ。福島第二原発の廃炉を求める運動を展開し、福島はもとより、全国で原発廃炉を求める大衆運動へと広がっていく」とあいさつがあった。

その後、避難を強いられている地元的女性や若者からアピールがあり、今の政治の矛盾を明らかにし、政治に関心をもち、運動を広げる必要があるとの決意が示された。

最後に集会アピールを採択の後、市内をデモ行進し、「福島を返せ」「原発再稼働反対」を訴えた。

第五世代

春闘が佳境を迎える。3月17日連合発表の第1次回答集計では4年連続で月例賃金が改善したとし、定期昇給を含め約6千200円の賃上げ見通しと発表した。しかし生活改善が実感できる賃上げ水準とは程遠く、諸先輩が国民春闘と位置付け、果敢に闘ってきた時代から大幅に後退した感はない。労働者が主体となり労使の力関係で改善を勝ち取る姿勢が希薄となっている現状こそ問題視し、労働運動の原点をふり返る必要があると痛感させられる。長時間労働の上限規制に関し、連合と経団連は、繁忙期の上限を月100時間未満とすることで決着したが、繁忙期の特例上限である年720時間には休日労働が含まれず、事実上「過労死ライン」を超える労働を看過している。労災認定基準に相当する働き方を労働側も認めたことは、労働組合の立ち位置として極めて問題と

退職者の皆さんありがとうございました

3月となり、今年も多くの先輩、仲間の皆さんが職場を去られます。

長い年月、県勢発展のため第一線で働いてこられた先輩の皆さんには、県職労の権利拡大や組織強化のため支部や分会、いろいろな場面で運動を支えていただきました。

心から感謝を申し上げます。

組合員、準組合員の皆さんのお名前を掲載させていただきます。(順不同・敬称略。なお、掲載を希望しないと申出のあった方は掲載しておりません)

▼県庁支部

- 浅沼良巳(管財課・車庫)
- 小笠原一也(管財課・守衛室)
- 佐藤和彦(調査統計課)
- 松本実(環境生活企画課)
- 大内秀喜(環境保全課)
- 五日市周三(農林水産企画課)
- 小沢幸彦(森林保全課)
- 檜山護(砂防防災課)
- 田村莊弥(まちづくり再生課)
- 菊池寛(監査委員会事務局)
- 下村真紀子(資源循環推進課)
- 畠山祐子(健康課)
- 盛岡支部
- 高橋千秋(県立療育センター)
- 小向哲(盛岡広域振興局県税課)
- 武田正(福祉総合相談センター)
- 千田充(福祉総合相談センター)
- 高橋三郎(福祉総合相談センター)
- 細川健次(盛岡広域振興局土木部)
- 吉永弘之(盛岡広域振興局土木部)
- 柴田修(盛岡広域振興局経営企画部)
- 及川団(中央家畜保健衛生所)
- 畠山栄二(北上川上流流域下水道事務所)
- 木村孝男(環境保健研究センター)
- 佐藤卓(環境保健研究センター)
- 白藤周司(環境保健研究センター)
- 堀越猛(下水道公社)
- 三浦まゆみ(県立立大工学)
- 玉山俊彦(林業技術センター)
- 山内貴義(環境保健研究センター)

▼花巻支部

- 中沢悟(花巻保健福祉環境センター)
- 中村信行(花巻農林振興センター)
- 小関司(花巻空港事務所)
- 北上支部
- 鈴木協二(北上農村整備センター)
- 大湊健二(県立農業大学校)
- 後藤悟(県立農業大学校)
- 阿部武美(農業研究センター)

▼胆江支部

- 菅原章(県南広域振興局保健福祉環境部)
- 中村実(県南広域振興局土木部)
- 宮正二(県南広域振興局農村整備室)
- 煙山義史(県南広域振興局農村整備室)
- 石村茂(産業技術短期大学校水沢校)
- 吉野孝(産業技術短期大学校水沢校)
- 木村稔(県南広域振興局経営企画部)
- 原子良信(県南広域振興局土木部)

▼一関支部

- 千葉政典(一関総務センター)
- 遠藤正志(一関農林振興センター)
- 佐藤祐一(千厩高等技術専門学校)
- 阿部友美(一関保健福祉環境センター)
- 室谷修治(一関土木センター)
- 野口孝久(一関土木センター)
- 菅原大(一関県税センター)

▼気仙支部

- 互野勝則(大船渡地域振興センター)
- 中村勝義(大船渡農林振興センター)
- 安居菜々瀬(大船渡水産振興センター)

▼釜石支部

- 加藤裕(沿岸広域振興局土木部)
- 佐藤裕保(沿岸広域振興局水産部)
- 菊池達也(水産技術センター)
- 三浦義光(水産技術センター)
- 山崎久雄(水産技術センター)
- 小菅裕明(沿岸広域振興局農林部)
- 小菅慧遠(沿岸広域振興局農林部)
- 平林雅弘(沿岸広域振興局農林部)
- 三上雅弘(沿岸広域振興局保健福祉環境部)
- 山田啓一(沿岸広域振興局土木部)
- 石山由夫(人事課・大槌町派遣)
- 石原浄(人事課・大槌町派遣)

▼宮古支部

- 八幡孝幸(宮古児童相談所)
- 冬川修(岩泉土木センター)
- 高橋裕矢(県立宮古高等看護学院)
- 安田郁雄(宮古土木センター)
- 坂本潤一(宮古地域振興センター)

▼久慈支部

- 木村経三(県北広域振興局林務部)
- 菅原秀文(県北広域振興局農村整備室)

▼二戸支部

- 玉懸博文(県北広域振興局)
- 永村桂一(二戸保健福祉環境センター)
- 稲盛雅夫(二戸高等技術専門学校)
- 及川光史(二戸農林振興センター)

▼本支部

- 澤田実(二戸農業改良普及センター)
- 久米正明(二戸農業改良普及センター)
- 藤根貞光(二戸農林振興センター農村整備室)
- 山根信一(二戸農林振興センター農村整備室)
- 永井昌(二戸高等技術専門学校・再任用)
- 平井孝典(県立図書館)
- 川村和則(県立盛岡北高等学校)
- 及川立雄(企業局経営総務室)
- 千枝泰航(企業局施設総合管理)
- 熊谷恭子(県立中央病院)
- 赤坂裕子(県立中部病院)
- 金田学(医療局)
- 佐藤圭(出向・盛岡市保健所)

加入促進、職場での声かけを

各支部・知恵を出し合い取りくみに本腰

4月の新採加入に向けて、各支部では加入対策会議を開催しています。会議では「交流する機会も少なくなるといふ組合のいいところが薄れてきている」「職場の課題はあっても、職場に運動がなく組合が身近に感じられない」など、感じていることを出し合い、日頃

の運動を振り返る機会にもなりました。

また、「組合に入っている安心感がある。何かあった時に助けてもらえる」「もし何もやってこなかったら」と思うと怖くなる。組合がなくなると大変」という声も出され、組合の意義を再確認する機会にもなりました。

「声かけのツツ」

各支部から出された声かけのコツ！を紹介します。

- ①新採用職員が配属されたら、すぐに声をかける！時間が経てば経つほど、声かけできない気持ちになるためです。
- ②「組合は、入るのが当たり前だよ」と言い切ってしまうと、新採用職員は、県の仕事や社会のこと等はまだまだわかっていないので、丁寧に説明してイメージがわかないように、忘れてしまう。
- ③「組合は、入るのが当たり前だよ」と言い切ってしまうと、新採用職員も不安に思ってしまう。

【お詫びと訂正】

「新年号クイズ当選者」の中で小野寺徹さん「久慈支部・農業改良普及所分会」となっておりましたが、正しくは「胆江支部・農村整備室分会」でした。お詫びをし訂正させていただきます。



花巻支部の対策会議の様子

新採用職員が配属されたら、職場で

「組合は必要だから、加入するものだよ。組合に加入することは、県民のためにもつながっているんだよ。」

と言って、加入届に必要な事項を記入してもらいましょう。

これ、県職員の組合の加入届だよ。組合は必要だから県職員でもつくってるよ。記入したら私に提出してね。今日中でいいよ！

細かいことは、後で職場のみんなで「お昼」に集まって教えるから心配しないでいいよ。



新採用職員

先輩組合員